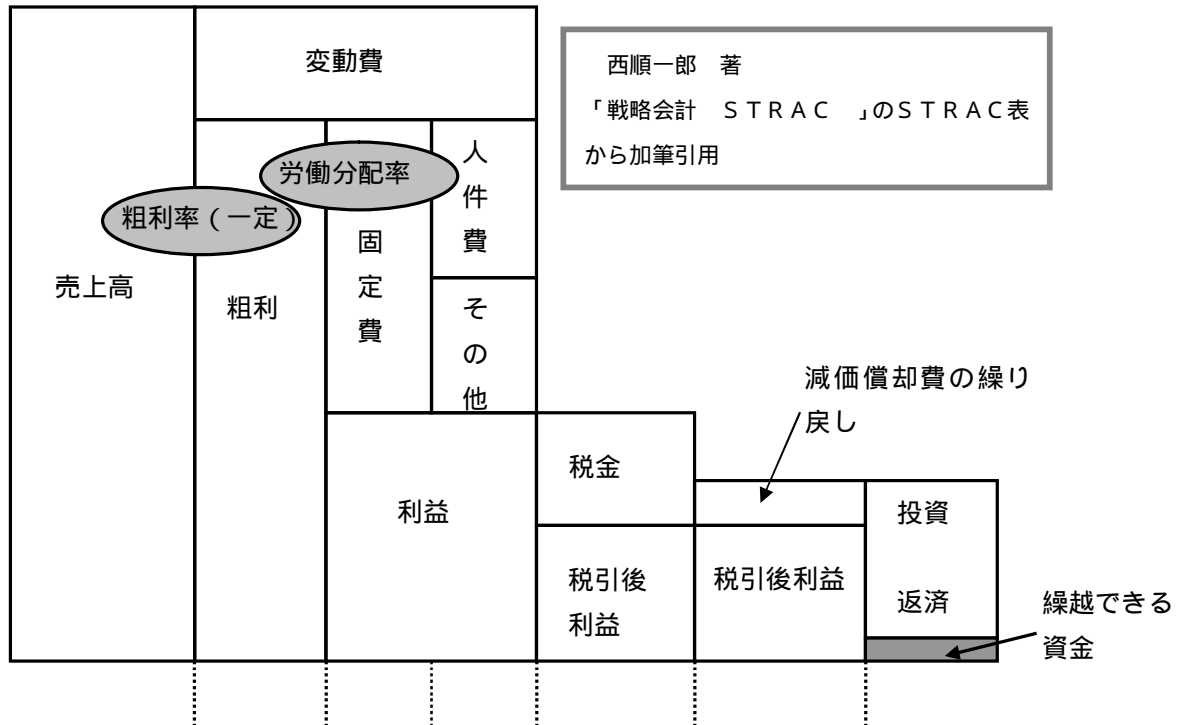


お金の流れの全体像をつかむ

「キャッシュフロー経営って?」(和仁達也・著)のP78・79から抜粋

【キャッシュフローの全体図】

理解しやすくする為、あえて省略した部分があります。



<ポイント>

売上高が確保できることから考えます。

粗利率は商品や事業内容が同じなら、ふつうはほぼ一定です。

変動費は売上高の増減に比例して増減します。(商品や材料の仕入、外注費など)

粗利から利益を引いた分が固定費です。利益目標を確保するには、固定費を「粗利目標 - 利益目標」以内に抑える必要があります

固定費は売上高の増減にあまり関係なく、一定して固定的に発生します。

よって、売上高が減少すると、自動的に利益は圧縮され、減ります。

固定費は、主に人件費(スタッフにかかる経費)、その他経費からなります。

通常、人件費のしめる割合が高く、固定費の半分以上を占める場合が多いです。

利益のうち、4割程度を税金(法人税等)として納めます。

その他経費に組み込まれていた減価償却費は、お金が出て行かない費用なので、資金繰りを見るときは、繰り戻します。

税引後利益と減価償却費を足したもの(本業によるキャッシュフロー)から、設備投資や借入金の返済、次期繰越の資金に当てます。

実際には、在庫や売掛金・買掛金の増減なども資金繰りに大きく影響を与えますが、図に表しにくいので省略しました。